

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「子どもも大人も共に学び育ち合う」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

- ・令和2年7月に地域学校協働本部を立ち上げ、協働本部を中心に支援組織の育成やボランティアと学校との連携を深めよりよく支援できるよう努めている。
- ・学校の働き方改革の中で教育課題の共有等を踏まえ、より良い教育活動が推進できるよう事業を行っている。

内容

- 学校支援として、登下校の安全指導、登山・スキー等の自然体験活動、日本舞踊等の伝統文化伝承活動、職場体験活動、中学3年生を対象とした学び支援活動、読み聞かせ・図書整理等、多岐にわたって支援を行っている。
- ・研修活動、ボランティアとの交流活動、理解を深めるための広報活動等も推進している。

ポイント

市内小中学校に地域連携担当教員を配置。ボランティアと学校との関係性を深めること、ボランティアの組織化、市民への認識を深めるための広報活動の充実を重点的に推進している。

成果

- ・自然体験活動の支援を行うことで、安全で安心な活動につながることで、児童等が達成感を味わうことに大きく寄与している。学び支援では個別に支援することで個々の学力向上に寄与している。さらに伝統文化、読み聞かせ、農業活動、環境整備など多岐にわたる支援を行い、教育活動の充実に寄与している。

今後の方向性

学校教育の現状を踏まえ、地域住民と教育課題の共有を図り、地域の教育資源を有効活用できるよう、より多くのボランティアの協力を得られるようにする。

また、ボランティアの有効活用を図るために、集約した情報をデータバンク化し学校に提供できるようにしたい。



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「富谷市地域・学校・家庭をつなぐ取組(学校支援活動)」(宮城県富谷市)

取組の概要や経緯

文部科学省の掲げる「学校を核とした地域づくり」を目指すため、地域の力が結集される各公民館に、地域学校協働本部を設置している。5つの協働本部で各地区の地域コーディネーターを中心に、学校教育の支援を地域の住民らと共に、各地区の特色あるテーマを掲げ、実施している。



内容

本市の地域学校協働本部は、富谷、富ヶ丘・日吉台、あけの平、東向陽台・明石台、成田の5つ設置し、地域ごとに5つのテーマをもとに、活動を展開している。富谷地区(富谷中央公民館)は、「富谷の伝承文化を大切にしよう」のテーマのもと、かつて宿場町として栄えた歴史と伝統のある「しんまち地区」をベースに、本市の歴史学習や伊達政宗公の時代より伝わる「富谷田植踊り」の体験学習を地域の方々と実施している。また、新興住宅が立ち並ぶ成田地区(成田公民館)では、「音楽で心を重ねよう」のテーマのもと、弦楽四重奏の演奏会や市民歌の合唱など、音楽にふれあいながら、活動の実施をしている。このほかにも、環境美化活動や図書整備、作品展の実施など、テーマにとらわれず幅広い活動を行い、地域と学校を繋ぎながら、子どもたちの育成と地域コミュニティの醸成に励んでいる。

ポイント

- ①地域からの信望の厚い地域学校協働活動推進員を各地区に数名配置。
- ②年に数回、学校の教員や地域関係者、行政区長らでつくる協議会を実施。
- ③学校ではなく、地域活動の中心である公民館に地域学校協働本部を設置。
- ④前例にとられない幅広い学校支援を行う。

成果

子どもたちにとっては、普段の授業だけではなく、地域の人たちを交えた授業や活動を行うことにより、子どもたちの授業への理解度や地域の方との交流を深めることができた。地域の人たちにとっては、地域での希薄化されつつある地域コミュニティを構築することができ、これらの活動が地域の横のつながりをも醸成されていると思われる。また、新型コロナウイルス感染症の影響を打破して活動を盛り返してきていると思われる。

今後の方向性

- ①新型コロナウイルス感染症の影響により減少した活動数を従前どおりに戻していく。
- ②地域学校協働活動推進員や学校支援ボランティアへの研修会を行い、コーディネート能力などの向上を目指す。
- ③地域から学校への支援のほか、子どもたち主体で地域に還元する取組ができるよう考える。
- ④一歩進んだ「つなぐ取組」としてアップデート、サポート、ボリュームアップを目指していく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動(学校支援活動)」(宮城県蔵王町)

取組の概要や経緯

蔵王町の地域学校協働活動では「学校を核とした地域づくり」を目指すため、地域・家庭・学校が連携しながら事業を展開している。地域コーディネーターを中心に、8つの小中学校それぞれの実情に合った活動を多岐に渡り実施している。

内容

(1) 学習支援活動

町内の小中学校における学習支援(指導・補助)を行う。毛筆指導、蔵王町の歴史講話、地層の学習、田植え・稲刈りの学習など

(2) 校外活動支援

町内の小中学校における校外学習の支援(指導・補助)を行う。登山指導など

(3) キャリア教育

中学生が社会人との関わりを持つことで、将来の自分を深く考えるきっかけを作る。職場体験学習、マナー講座、キャリアセミナー

ポイント

2人のコーディネーターが町内8小中学校からの要望を取りまとめ、ボランティアとのマッチング、連絡・調整を行うことで学校側の負担軽減を図っている。地域資源や人材を活用した体験式授業により、実のある学習や地域との繋がりを学ぶことができる。

成果

- ・コーディネーターによる連絡・調整でスムーズな学習継続が行われているため、学校側の満足度が高い。
- ・ボランティアが自分の知識や特技を活かせることで、活動に生きがいを感じている。
- ・ボランティアとの交流や地域資源の活用により子どもたちの郷土愛を高める。

今後の方向性

- ・コロナ禍において制限されていた活動の通常化を図るために支援や配慮が必要になっていく。
- ・令和5年度からコミュニティスクールが発足するため、連携を取りながら有意義な活動を発展させていく。
- ・幅広い活動を展開し、活動するボランティアの固定化を解消していきたい。



読み聞かせ活動



毛筆指導



キャリアセミナー

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「柴田町協働教育推進事業 学校支援活動の取組事例」(宮城県柴田町)

取組の概要や経緯

学校の教育活動を地域が支援する体制を整備し、煩雑化した学校の業務を軽減し、教師の教育活動の時間確保と充実を図るとともに開かれた学校づくりを推進する。また、地域住民や企業の社会貢献を実現し、学習機会の提供や生きがい・やりがい作りの場を作り、地域の教育力の向上を目指す。

内容

- (1) 学校の要請に応じて「しばたっ子応援団」(学校支援ボランティア)の派遣
- (2) キャリア教育支援
- (3) 柴田町協働教育推進委員会(地域学校協働本部)の開催
- (4) しばたっ子応援団研修会の開催

ポイント

- (1) 「学校が必要としている支援」にコーディネーターが寄り添い、先生が児童・生徒を思う気持ちを最優先
- (2) キャリアセミナーは少人数で実施して生徒と社会人講師の距離をより近く
- (3) 町内全域で組織化し、学校間・地域間で様々な情報交換ができる
- (4) ボランティア同士のネットワークを構築し、「やりがい」の共有

成果

- ・学校が負担を感じず(100%)、先生が良いと思える(100%)活動をコーディネートできた。また、活動に関わったボランティアの97%がやりがいを感じる活動にすることができた。(学校支援ボランティア活動後のアンケートより)
- ・地域連携担当の先生からの相談からボランティアが関わる学校支援活動につながるが増えてきており、学校と地域をつなぐコーディネーターの活動が浸透してきている。



今後の方向性

町内小中学校の児童・生徒・先生のニーズに沿うようなしばたっ子応援団員を確保するために、新規入団者の募集や発掘を随時行っている。町内の住民や団体だけでなく、町内外の事業所等にもしばたっ子応援団に登録していただくことで、今後も継続的に地域学校協働活動を実施し、学習の機会を提供する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」(学校を核とした地域力強化プラン) (学校の働き方改革をふまえた学校支援活動)の取組事例

「キャリアセミナー」(宮城県亘理町)

取組の概要や経緯

地域を再生していくにあたり、自分たちの生き方やまちづくりについてしっかりと考えることのできる児童・生徒を育成することが大切である。

そこで、町内中学校の生徒に対し、様々な職業や立場で活躍している方の講話を聞くことができる場面を設定している。

生涯学習課主催となり、NPOへ委託し、学校の働き方改革をふまえた学校支援(キャリア教育支援)の一環として、平成24年度から継続して開催している。

働く意義、喜びや苦勞、夢を実現させるための過程で大切にすべきことなどを聴き、自分の生き方をしっかりと考える機会とすることを旨とした事業を行っている。

内容

- NPO法人ハーベストに、事前打合せ及び当日の運営を委託。
- 町内4つの中学校で実施。中学2年生対象(小規模校は1, 2年生)
- 学校規模及び要望等をふまえた講師選定をお願いして、生徒は希望の講師2人から1時間×2コマずつ受講してアンケート用紙記入。



ポイント

- ①学校の働き方改革をふまえた、キャリア教育支援の一環として、学校や生徒の要望も取り入れた柔軟な講師選定及び協力体制を構築し、生徒の学びを深める。
- ②様々な職業や立場の講師を選定により、生徒の興味・関心を引き出す。

成果

・将来の目標が決まっていない、大人になることや働くことイメージができていない生徒が多数。どのように生きていきたいか、また、将来の夢や職業をどのようにしていきたいかを考えることに対する意識の深まり高まりが感じられた。

・NPO法人ハーベスト及び講師の方々、学校が、事業の趣旨を理解し、自分たちの生き方についてしっかりと考えることのできる生徒の育成に対する協力体制が感じられる。

※校長先生の感想抜粋

生徒は普段、家族と教員しか接する大人がいない。身近にいる様々な職業をしている大人の生の体験談を聞いたことは大変有意義である。講師の先生方と一緒に教室へ戻ってくる生徒の様子を見て、ためになる充実したお話をいただいた時間を過ごせたのだと感じた。

今後の方向性

- ・現在、町内4校の中学校2年生対象で開催しており、職場体験も2年生で実施しているため、繋がりを意識した事業展開をしていくことも有効であると考えられる。
- ・講師の選定にあたって、まちづくりに関わる方に来てもらい、講話をいただくことでより、まちづくりに興味・関心を持ってもらうようにする。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン) の取組事例

「地域資源や人材を生かした学習支援事業」(宮城県大衡村)

取組の概要や経緯

子どもを地域全体で育むために、家庭・地域・学校を結ぶ仕組みを作り、学校教育の充実や子どもたちの健全育成、住民のやりがいや生きがいがつくりを推進するため、ボランティアの募集や派遣を行った。

内容

・家庭科授業の補助(ミシンの使い方指導:小学校5・6年生対象)

ポイント

村内全世帯に「地域学校協働活動推進だより」とボランティア申込書を配布し、活動内容の周知を図っている。

成果

活動を通して地域ボランティアと児童の交流が図られ、地域住民のやりがいや意欲につながっている。また、親世代・祖父母世代のボランティアとの関わりは、3世代の交流を兼ねての取組となっている。



今後の方向性

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止や学校行事との調整等により、予定より日数や人数を縮小して行った。今後も学校との連絡を密にし、また新型コロナウイルス感染症対策等を講じながら、事業を継続していきたい。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「女川町協働教育プラットフォーム事業[学校教育支援]」(宮城県女川町)

取組の概要や経緯

地域が一丸となって将来を担う子供たちを育て支えていく仕組みをつくり、地域社会全体の教育力の向上を目指してきた。協働教育を支える人材の育成や、学校の勤労体験、職場体験、生活実学等の体験活動の充実のために、「地域の資源や教育力」の活用をより積極的に促し、町内の子供は、おながわのみんなで育てる体制づくりを推進した。



内容

学習補助として、学校の教育活動のニーズに合った講師を授業に派遣する。地域住民の、町内の子供に対する関心を高めるために、町内並びに近隣に居住する人材を見付ける。また、校外活動等を町内で実施する場合も調整して講座を提供する。

- [女川小学校]○サツマイモの植栽・収穫・焼き芋 ○町探検 ○水辺の生物探索 ○リース作り
○水産業 ○歯科学習 ○防災学習(講話、防災グッズ作り) ○着衣泳
○キャリアセミナーⅠ・Ⅱ ○ミニ職場体験 ○工場等の見学 ○自然体験教室の補助
○3.11みやぎ鎮魂の日講話 など
- [女川中学校]○潮活動 ○職場体験 ○保健体育科の授業(ダンス、歯科学習) ○思春期教室



ポイント

学校の教育活動に適切に対応できる講師を派遣する。また、座学だけではなく、必ず体験活動ができるように学習過程の計画を立てている。体験活動に関わる準備は、生涯学習係が担っているため、学校の負担が軽減し、教師に働き方改革の改善の一助となっている。

成果

小・中学校の学習補助に多数の講師を派遣するとともに、講師同士のつながりづくりも行った。本年度の成果としては、学校に多く足を運び、その都度、打合せや確認を行ったり、要望などを聞いたりしたことで、教師から積極的に派遣の相談をいただけるようになった。

中学校の「潮活動」は、本年度で27年目を迎える女川町の特色ある活動の一つである。潮活動の講師と学校の教員が、「潮活動」での学びの成果を地域に還元する方法を考え、実践できたことも成果である。

今後の方向性

中学校の「潮活動」のように長く続く事業の講師は、高年齢化している。講座の質を継続するために、次世代の指導者の人材発掘と指導力の向上が急務となっている。地域の中で講師となる人材を発掘するためには、地域学校協働活動や子供たちの活動について知ってもらい、町民の、子供たちの活動への興味・関心を高めたい。その上で、学習補助希望者を募り、「人材バンク」を使いやすいものにアップデートしていきたいと考える。